

曹洞宗総合研究センター 第24回学術大会 プログラム

開催日 令和4年11月1日(火)～2日(水)
会場 曹洞宗檀信徒会館(東京グランドホテル)
第1部会 3階桜の間
第2部会 3階蘭の間

大会日程

- 1、開会式 9時30分より 開会式(桜の間)
- 2、パネルディスカッション 11月1日 10時 桜の間 島蘭進、大菅俊幸、飯島恵道
◇ コロナ以後の地域社会と仏教を考える
— 瓜生岩と有馬実成を手掛かりに—
- 3、リレー発表 11月1日 13時 蘭の間 教化研修部門研究部
◇ 平成以降の教化研究における傾向と課題について
— 『教化研修』『センター学術大会紀要』を通して—
- 4、個人研究発表 11月1日、2日
第1部会 桜の間 第2部会 蘭の間

<第1日> 11月1日

第1部会 <桜の間>パネルディスカッション
午前の部(10時～11時30分)

コロナ以後の地域社会と仏教を考える

— 瓜生岩と有馬実成を手掛かりに—

思いもかけない不測の事態が相次ぐ「まさか」の時代にあって、宗教者の社会倫理が問われています。そこで、このパネルディスカッションでは、仏教精神による社会実践、社会事業に邁進し、新たな道を切り開いた2人の先駆者、瓜生岩と有馬実成に着眼し、その思想と実践を手掛かりとして、コロナ以後の地域社会と仏教の在り方について考えます。

○パネリスト

島蘭 進(大正大学地域構想研究所客員教授)

大菅俊幸((公社)シャンティ国際ボランティア会専門アドバイザー)

○コメンテーター

飯島恵道(長野県東昌寺住職)

○司会

関水博道(教化研修部門主任)

第1部会<桜の間>個人発表

午後の部（13時20分～16時40分）

1. テーラヴァーダ仏教の禅定論における報障について
近現代教団研究部門主任 古山健一
2. 『釈摩訶羅蜜次第法門』における観境と観法
愛知学院大学専任講師 大松久規
3. 『正法眼蔵』における心の解釈について
センター常任研究員 新井一光
4. 曇英惠應と奥州探題大崎義兼—『曇英禅師語録』の検討から
曹洞宗文化財調査委員会調査員 田中宏志
5. 万仞道坦撰述『山菴夜話』について
センター専門研究員 清藤久嗣
6. 『修証義』と『明教新誌』『扶宗会雑誌』
センター常任研究員 宮地清彦
7. 東嶺円慈撰『碧巖百則辨』にみる神道説について
センター委託研究員 佐藤俊晃
8. 出家と得度
臨済宗妙心寺派教学研究委員 水野隆道
9. 曹洞宗の戦時教学に抗した斎藤秀一師、青木宗英師、菅原道顕師
愛知県龍潭寺住職 別府良孝
10. 曹洞宗における宗義解釈の一視点
センター所長 志部憲一

第2部会<蘭の間>個人発表

午前の部（10時～11時40分）

1. 「発願式」に関する一考察—事例調査とアンケート調査をもとに
教化研修部門研究生 原山佑成
2. 曹洞宗における頂相について—複製頂相の再評価
曹洞宗文化財調査委員会主事 伊藤良久
3. 『瑩山清規』「結縁看経牌」文に関する一考察
センター常任研究員 澤城邦生
4. 17世紀以降に出現する『伝光録』写本について
愛知学院大学専任講師 横山龍顯
5. 瑞世考（2）—総持寺蔵『住山記』と近世僧伝資料
センター講師 尾崎正善

平成以降の教化研究における傾向と課題について

—『教化研修』『センター学術大会紀要』を通して—

1955年に教化研修所が開所されて以来、宗門における教化研究は『教化研修』『曹洞宗総合研究センター学術大会紀要』を中心とした発表、論文投稿によって蓄積されてきました。しかしながら、こうした教化研究を振り返り、その研究テーマや調査手法などを分析、総括する動きはこれまで乏しかったと言えます。

そこで、本研究では、平成以降30年の教化に関する論文を対象に、具体的な内容に踏み込んだ分析を行います。そして、近年の教化研究における傾向・手法を明らかにし、教化研究における今後の課題を示してみたいと思います。

○発表者

菊地志門(教化研修部門研究生)

原山佑成(教化研修部門研究生)

久松彰彦(教化研修部門研究生)

秦 慧洲(教化研修部門研究生)

1. 新しい仏教経済学への提案—循環する gift エコノミーの実践に向けて

SOTO 禅インターナショナル事務局会計 内山温子

2. 家父長制の寺院

女性と仏教・関東ネットワーク 瀬野美佐

3. 寺院における3.11後の教化活動—公募企画・祈りの手紙を通じて

福島県安洞院住職 横山俊顕

4. ユマニストとしての衛藤即応—日本精神運動批判の根拠と視座

センター嘱託員研究員 工藤英勝

5. 曹洞宗北アメリカ国際布教百年前史2—開教以前の宗侶の北米留学

教化研修部門副主任 南原一貴

6. 現代日本における生命尊重教育の必要性—保育と看護の学生を参考に

育英短期大学名誉教授 佐藤達全

<第2日> 11月2日

第1部会<桜の間>個人発表

午前の部(9時20分~11時40分)

1. 『舍利相伝記』と宋代禅宗の舍利信仰
宗学研究部門主任 小早川浩大
2. 道元禅師における布薩について
宗学研究部門研究員 永井賢隆
3. 『正法眼蔵』に引用される『華嚴経』について
早稲田大学大学院 米野大雄
4. 鎌倉時代の僧侶と禅宗への転向
駒澤大学大学院 鯨岡信
5. 甘露英泉の禅戒思想—独庵玄光への批判を中心として
駒澤大学大学院 務臺宗孝
6. 『従容録』と『隰州古仏頌古称提』の比較研究—第一則を中心に
駒澤大学大学院 中野智教
7. 近世における三法幢地の任命の経緯について
センター常任研究員 秋津秀彰

第2部会 <蘭の間>個人発表

午前の部(9時20分~12時)

1. 「四威儀の禅」の検討
教化研修部門研究生 久松彰彦
2. 明治期における宗門音楽教化の動向について
宗学研究部門研究員 山内弾正
3. 高田道見の教化思想について—受戒の勧めを通して
教化研修部門研究生 秦慧洲
4. お寺図書館の可能性に関する考察—本を通じた教化活動と寺院図書館の効果の考察
教化研修部門研修生 糸井俊人
5. 宗教におけるソーシャル・キャピタルの有用性—先行研究の分析から
教化研修部門研究生 菊地志門
6. 祈りの集い - 自死者供養の会 - 居場所としての機能
センター常任研究員 久保田永俊
7. 禅社員研修の実際と課題、今後の展望について
センター常任研究員 宇野全智
8. 「教区布教」の可能性—コロナ禍における教区SNSの実践例から
教化研修部門主任 関水博道

※プログラムは変更になる場合があります。